

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は2ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立桜修館中等教育学校

次の**文章A**・**文章B**を読んで、あとの**問題**に答えなさい。

文章A 水を飲んで楽しむものあり。錦を衣て憂ふるものあり。

文章B 出る月を待つべし。散る花を追ふこと勿れ。

(井上哲次郎「新訂日本陽明學派の哲學」による)

問題

右の文章は江戸時代のある学者が、自分のもとで学ぶ若者のために示したいくつかの文章の一部分です。

文章A は「水を飲んで愉快に思う人がいる。また、豪華で美しい着物を着てなげき悲しむ人がいる。」という

意味です。**文章B** は「出る月を待つのがよい。散る桜を追ってはいけない。」という意味です。

この学者は、この文章を通して、どのようなことを言いたかったのだとあなたは考えますか。

解答らん①に「Aは……。」、段落をかえて「Bは……。」という構成で、全体で百六十字以上、二百字以内で分かりやすく書きましよう。

また、この二つの文章に共通する物事のとらえ方・考え方はどのようなものだと思われますか。そして、その物事のとらえ方・考え方について、あなたはどのようなことを考えましたか。あなたの考えを、解答らん②にいくつかの段落に分けて、四百字以上、五百字以内で分かりやすく書きましよう。

(書き方のきまり)

- 題名、名前は書かずに一行目から書き始めましょう。
- 書き出しや、段落だんらくをかえるときは、ますを一字空けて書きましょう。
- 行をかえるのは段落をかえるときだけとします。会話などを入れる場合は、行をかえてはいけません。
- 読点とつてん↓、や 句点↓。かぎ↓ 「などはそれぞれ一ますに書きましょう。ただし、句点とかぎ↓。」は、同じますに書きましょう。
- 読点や句点が行の一番上にきてしまうときは、前の行の一番最後の字といっしょに同じますに書きましょう。
- 書き出しや、段落をかえて空いたますも字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますは、字数として数えません。
- 文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直しましょう。